

テ裏書人ニ對シテハ其償還義務ニ止マラサ  
ル牛ニ限ルヲ得ルニ在リ(佛國民法第千二百  
五十一條第三項及「ブラワール」第三冊第四百  
八十二條)

第八百八條

支拂人ニ代ハリテ為替手形ノ支拂ヲ為シタル  
者ハ支拂人又ハ償還義務者ニ對シテ所持人ノ  
權利ヲ主張スルヲ得

本條ノ原則ハ氣譽支拂人ニ係リ既ニ第七百  
七十一條ニ掲ケタリ(佛國商法第百五十九條)  
然レ氏参加ニ非スシテ支拂人ニ代リ支拂ヲ  
為ス者ナシトセズ例之ハ裏書人ハ償還要求  
ノ費用ヲ免レンカ為メニシ又他ノ諸人ノ参  
加期限既ニ經過シタル後ニ於テスルカ如シ  
是ノ如キ支拂者ハ所持人ノ權ヲ得ルヲ當ニ  
償還義務者ニ對シテ然ルニ止マラス支拂人

ニ對シテモ亦然リ故ニ為替及ヒ之ニ屬スル  
諸證書ノ引渡ヲ要求スルノ權アリ(商法雜誌  
第十三冊第三百廿六條)

### 第八百九條

振出人及ヒ裏書讓渡人ハ為替資金ヲ供シタル  
モ為替手形ノ引受及ヒ支拂ニ付キ連帶ノ責任  
ヲ免カル、一ヲ得不然トモ其責任ハ別段ノ契  
約ヲ以テ其契約者間ニ於テノ三之ヲ制限シ又  
ハ廢止スル<sub>一</sub>ヲ得

振出人及裏書人、唯々其署名ニ由リテ責任  
ヲ帶ヒ之ニ對シテ事實上ノ義務原因ヲ証明  
スル<sub>一</sub>ヲ要セサルハ第六百九十九條及第七  
百五條ニ掲ケタル為替ノ法式的ナル性質ヨ  
リ至スルモノニシテ引受人ノ唯々其引受ニ  
依リ嚴平タル法式的ノ責任ヲ帶ルト同一ナ

リ是故ニ支拂人ニ對シ如何ナル為替資金上  
ノ關係ヲ存スルヤハ之ヲ問フテ須ヒス何  
トナレハ振出人及裏書人ハ支拂人ノ保證人  
ト視ルヘケレハナリ(佛國商法第百四十條獨  
逸為替法第八條及第十四條伊國商法第二百  
廿五條和蘭商法第百四十六條)引受人ノ為替  
資金ヲ得サルカ為メニ支拂ヲ拒ムテ能ハサ  
ルカ如ク振出人ハ支拂人ニ為替資金ヲ渡シ  
タレハ再ヒ支拂フノ義務ナレトノ口實ヲ以  
テ償還要求ヲ免ル、ヲ得サルナリ(和蘭商法  
第百十九條)又為替所持人ハ振出人其渡レタ  
ル為替資金ヲ再ヒ戻受テタルカ為メニ其負

債アルト云フテ證明スルヲ須ヒス其之ヲ  
證明スヘキハ償還要求ノ期限ヲ經過シ第  
百四條ニ從ヒ非理占利ノ訴ヲ起スノ時ニ必  
要ナリ佛國商法第百七十一條ノ規則ハ此意  
ニ於テ了解スヘキナリ  
然リト雖モ此責任ハ特別ノ契約ヲ以テ廢除  
或ハ制限スルヲ得ヘキナリ而シテ是レ無保  
證無義務等ノ語ヲ為替面ニ明記シ保證義務  
ヲ法式上ニ於テスルモ、ニ止マラス(無指名  
ノ附言ニ就テハ本策第七百三十三條獨逸為  
替法第十四條ヲ参考スヘシ)又通信或ハ口約  
等ヲ以テスル為替面外ノ約束ニモ關スルモ

ノナリ唯々此特別約束ノ為替面上ノ文言ト  
異ナルハ彼レニ在リテハ普通ノ効力ヲ有シ  
此ニ在テハ唯々其約レタル者ノ間ニ其効ア  
ル是レナリ(グラワール第三冊第八十四葉及  
第百七十一葉)佛國法律學ニ於テハ此ノ如キ  
場合ニ於テ振出人其責任ヲ免ルハ為替資  
金ヲ渡シタルトキ證明レタルトキニ限ルト  
ノ説アリ是レ然ラカレハ振出人其振出シタ  
ル為替ノ為替代ニ對シ報酬ヲ為サス非理ノ  
利ヲ占ムルニ至ルト云フニ出ル所ナリ然レ  
ト巴里破毀裁判所ノ判決ニ依レハ之ニ及ス  
ル者アリ是レ其當ヲ得タル者ノ如シ(グラワ

ール第三冊第三十葉及第八十五葉註解)何ト  
ナレハ振出人ノ為替ニ署名スルニ必スレモ  
為替代ヲ受ケス唯々情誼ニ出テ或ハ外觀ニ  
止マリ其實一モ保證又ハ為替資金ノ義務ヲ  
負フノ意ナキトセサレハナリ故ニ契約  
ノ自由ハ牽掣ニ過クハカラス本條ノ例規ハ  
英國ニモ行ナハル所ナリ(スミス萬國商法  
第百七十四條)グラワール第三冊第百七十二  
葉註解)唯々此ノ如キ結約良心ニ出テス騙詐  
ヲ以テ目的トスルトキハ其効ナキト固ヨリ  
言フ費サハルナリ  
無保證ナル制限ノ無指名ナル制限ト異ナル

ハ彼ニ在リテハ自己ニ繼クハ一人ニ對ニテ  
ハ責任ヲ存シ唯タ其人以後、裏書人ニ對シ  
テ然ラサルノミ此ニ在リテハ抑モ其責任ヲ  
脫除スル是ナリ

第八百十條

支辨人ハ為替資金ヲ受取りタル片ハ勿論假令  
之ヲ受取ラサルモ振出人其他、為替資金義務  
者ニ對シ為替手形ノ引受及ヒ支辨、義務ヲ明  
示ニテ負擔ニタル片ハ引受若クハ支辨ヲ為サ  
ルニ因リテ振出人其他、為替資金義務者ニ  
生ジメタル損害ニ付キ責任ヲ負フ但此損害  
ニ付テノ請求ハ豫メ之ヲ支辨人ニ通知スル  
ヲ要セス

前諸條ニ述ル所ハ支辨人為替ヲ引受ケ及支  
辨ヲタル場合ニ於テ為替資金及辨償ヲ要求  
スルノニ係ル今ヤ之ニ及ヒテ支辨人為替資

金ヲ受取タルモ満期日ニ至リ支拂ヲ為サス  
之カ為ニ振出人又裏書人ヲシテ償還要求  
ノ訴ヲ受クルニ至ラシムルナリトセス是  
ノ如キ時裏書人ハ第八百八條ヲ適用レ得ヘ  
キニ非サレハ第七百八十條ニ依リ振出人及  
自己以前ノ裏書人ニ對シ償還要求権ヲ有ス  
償還要求ハ其結局總テ振出人ニ歸着シ又歸  
着セサルヲ得ズ何トナレハ振出人ハ初メ受  
取人ヨリ為替代ヲ得タルハ之ヲ以テ自カラ  
利ニ其保證セラレタル裏書人ニ損害ヲ加フ  
可ラサレハナリ然レモ振出人ニシテ既ニ支  
拂人ニ為替資金ヲ拂ヒ又償還要求ニ應スヘ

キニ於テハ二重ノ支拂ヲ為スモノナリ茲ニ  
匡正ノ法ナカルハカヲサレヤ明ナリ是レ則  
チ支拂人ニシテ為替資金ヲ得ルモ尚ホ支拂  
ハス以テ振出人ニ損害ヲ蒙ラシメタルト  
キ之ヲシテ賠償ノ義務アラシムルニ在リ支  
拂人ハ唯々其受取リタル為替資金ヲ振出人  
ニ拂戻スニ止マラス其支拂ハサルヨリ生レ  
タル損害ハ皆之ヲ償ハサルハカラス(ブラワ  
ール第ニ冊第四百八十四條)為替資金ノ領收  
ト同視スヘキモノハ為替ヲ支拂ハントノ明  
約是レナリ然レモ是レ特別ノ契約又ハ支拂  
人ヨリノ特別ナル約諾ニ出テタルモノニ限

ル為替ノ引受ハ首トレテ所持人ニ對スルモ  
ノニレテ唯々為替資金ヲ受取りタリトノ思  
料ヲ起サシムルニ止マリ為替資金ノ支拂ト  
同一ナラスト雖モ亦ク能ク右ノ約諾ト同視  
レテ可ナリ此約諾ハ通例通信ヲ以テ且書  
面ヲ用ユルヲ例トス獨逸為替法第廿三條ニ  
ハ支拂人ハ其引受ニ依リ振出人ニ對シテモ  
為替上ノ責アリト明言ス若シ引受人ニレテ  
振出人ヨリ訴訟ヲ受ケサラント欲セハ為替  
資金ヲ得サルヲ證明セサル可ラス然レモ  
支拂人ニレテ何レノ場合ヲ問ハス為替ヲ支  
拂ハント約シタルトキハ其為替資金ヲ受取

ラストノ反對證モ之ヲ舉クルヲ許サス(ボル  
シヤルド註釋第二百七十八條)  
支拂人ニ對スル要債權ハ必スレモ通知ヲ以  
テ起ルニ非ス此點ニ就テハ辨償要求ハ裏書  
人及振出人ニ對スル償還要求ト異ナリ何ト  
ナレハ辨償要求ハ其法ノ原因ヲ為替資金  
ノ領収或ハ特別ノ約諾ニ仰クモノニレテ更  
ニ發生ノ原由ヲ要セサレハナリ  
此點ニ就テハ他ノ為替資金義務者皆振出人  
ト同一ナリ何トナレハ他ノ為替資金義務者  
亦ク其渡シタル為替資金ノ損失或ハ約諾ノ  
理由ニ當レハナリ故ニ今振出委託者ニレテ

振出人ノ償還金支拂ヲ償ハサル可ラサルニ  
於テハ支拂人ハ此委託者ニ對ニ充分ノ辨償  
ヲ為スノ義務アルナリ  
若シ支拂人破産ニ遇ヒ為替資金ニ供ニタル  
物品(之カ為メニ記簿ヲ付シタル貨物)仍存ス  
ルトキハ振出人ハ此物品ヲ破産財團中ヨリ  
受取ルヲ得ヘシ又為替資金ノ為メニ支拂  
人ニ送リタル物品或ハ其賣得金ハ他ノ名義  
(留置権等ニ依リ)ヲ以テ支拂人之ヲ留置ク  
ヲ得サルナリ(レビ一萬國商法第一冊第四百  
五十一葉及ヒ第四百五十四葉)

第二節 約束手形

第八百十一條 約束手形ニハ左ノ諸件ヲ明瞭  
詳密ニ記載スルヲ要ス

第一 振出ノ日附及ヒ場所

第二 支拂金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル  
人若クハ所持人ニ支拂ヲ可キ旨

第四 満期日

第五 約束手形ト引換ニテ支拂ヲ為ス可キ  
旨

第六 振出人ノ署名捺印

為替手形ト約束手形トノ差ハ己ニ第六百九



十九條ノ説明ニ論シタリ約束手形ハ他人即  
チ支拂人ニ某金額ヲ支拂ヘシトノ囑託ヲ載  
セス唯々振出人自ラ支拂フヘシトノ約束ヲ  
記ス故ニ約束手形ハ二人ノ間ニ係リ即チ支  
拂ヲ為スヘキ者ト支拂ヲ受クヘキ者ト是十  
リ為替手形ニ於ル第三ノ人(名宛人、支拂人)ア  
ルトナシ然レ氏約束手形ニ於テモ亦々確定  
ノ金額ヲ嚴格ニ支拂フヘキ為替上ノ義務ヲ  
包有スルカ故ニ為替法ノ原則ハ亦々之ヲ約  
束手形ニモ適用ス唯々支拂人及其權利義務  
ニ係ルトヲ除クノミ蓋シ約束手形ニハ多少  
振出人ト支拂人ヲ一人ニ兼ヌルモノニシテ

支拂人ノ支拂人タルトニ係ル法式及處置ヲ  
要セス第(八百十四條)此點ニ着目スレハ約束  
手形ノ文面自カラ明ニシテ他ハ悉ク為替手  
形(第七百八條)ト同一ニ判スヘシ此意ヲ以テ  
約束手形ヲ為替手形ト一視スルハ他ノ諸國  
法律ニ於テモ皆ナリ(佛國商法第百八十七  
條及第百八十八條獨逸為替法第九十六條ヨ  
リ第九十八條ニ至ル和蘭商法第百八條及  
第百九條西國商法第五百五十八條伊國商  
法第百七十二條ヨリ第百七十四條ニ至  
ル)  
佛國商法第百卅六條ニ依レハ約束手形ノ

振出ニシテ商業取引ニ起因スルニ非サルモ  
ノハ商事ニ屬セズ故ニ通常ノ民事裁判所ニ  
於テ判決ス伊國商法第二條第七項及第三條  
第二項ニモ亦類似ノ規則アリ然レ此限制  
ニハ適切ノ理由アルトナク其被告ノ所望ニ  
應ヒテ然ラシムルモノハ即チ深キ要領アラ  
サルノ證タリ獨逸及英國ニハ是ノ如キ區別  
ヲ為サス(アラワール第三卷第五百三十八葉)  
又實ニ為替手形約束手形トノ義務ニ區別ア  
ルトナシ何トナレハ為替手形ノ振出人ト雖  
モ亦必支拂ニ負責アルモノニシテ且此責ヤ  
支拂人引受或ハ支拂ヲ為サ、ル時ハ直ニ履

行スヘキモノ(是レ振出人ノ隨意或ハ許諾ヲ  
以テ往々ニシテ有リ)ナレハナリ又名義而已  
ノ支拂人ヲ定ムル等ハ振出人ノ自由タリ蓋  
シ右ノ佛國商法ノ規則ノ如キハ今日ノ時運  
ニ適セズ為替ノ使用ヲ適事ノニニ限リ獨リ  
商人ノ事ト為シタル往時ノ餘波ト看做スヘ  
シ現時ニ於テハ商事ハ必スシモ其職業ニ因  
ラス其取引ノ性質ニ從ヒ之ヲ判スルモノニ  
シテ此點ヨリ論スレハ約束手形ノ振出ハ信  
用ノ融通作用ニ屬スルト為替手形ノ振出ニ  
同シキハ誣エヘカラサルナリ  
佛國法律ノ為メニ右ニ記スル全法律ノ區別

ハ殊ニ約束手形ヲ全一ノ地ニ於テ支拂フニ  
ノトシテ振出スルヲ得セシメ且之ニ就テ負  
債拘留ヲ許サストノ實用アリ此兩用々近時  
ノ立法及本案ニ採用シタル主義ノ為メ右  
ノ區別ヲ要セサルニ至リタリ  
伊國商法(第二百七十五條ヨリ第二百八十一  
條ニ至ル)ニ於テハ約束手形ヲ土産物ニ付テ  
又振出スルヲ得ヘシト為ス是レ殊ニ穀類ト油  
ニ係ル然レ氏是レ抑モ為替ハ必確定金額ニ  
就テ振出スヘシトノ原則ニ返シ又此土産物  
ニ係ル約束手形ハ眞個ノ為替ニ非ス他ノ例  
規ヲ之ニ用ユルモノ少ナカラス商法雜誌第

二十冊第三百卅葉ミテルマイエル氏説明カ  
ステラーノ氏商法指南子アヘル千八百四十  
二年出版第百七十九葉以下)蓋シ土産(就中米  
茶等ノ如キ換用物)ノ數量ニ係ル指圖證券ハ  
要用ニシテ且許スヘキ所タルハ勿論タリ然  
レ氏是レ為替法ニ屬セズ本案ニ依レハ指圖  
證券ノ規則ヲ以テ論スヘキナリ(第七章第十  
一節)

或ハ問ハニ無記名約束手形ト紙幣或ハ銀行  
紙幣トノ差ハ何クニ在ルヤト蓋シ外面上ヨ  
リ見ルトキハ二者ノ間差ヲ見ス何トナレハ  
兩種ノ證券ニ於テ振出人ハ所持人ノ需メニ

應ニ確定ノ金額ヲ支拂下ヲ約スルモノナレ  
ハナリ故ニ英國法律學ニ於テハ銀行紙幣ヲ  
名ケテ銀行ノ振出しタル約束手形ト云フ(ス  
ミス高法第百九十九葉注解)然レハ是唯タ皮  
相上ノ觀察ニシテ兩者ノ間ニハ深遠重大ノ  
差アリ(高法雜誌第十四冊第六百五十七葉ゴ  
ルトシシミット高法第二冊第百七條ヨリ第百九  
條ニ至ル)總テ為替ハ(約束手形亦タ然リ)私民  
ノ信用ニ生シ銀行紙幣ニ至テハ公然ノ信用  
ニ起ルモノニシテ為替ノ發行ハ人皆十契約  
ノ權ニ資リ之ヲ為スヲ得銀行紙幣ノ發行ハ  
必特別ナル法律上ノ許可ニ基キ其實行政部

内ノ事ニ屬ス故ニ其銀行ニ限り銀行紙幣ヲ  
發行スルヲ許シ法律上ノ規則ニ依リ且保證  
監督上ノ制限アリ是ノ如キ銀行ノ經理ハ其  
銀行紙幣ノ保全ニ係ル下ニ限り法律ノ規則  
行政上ノ監督ヲ蒙ルモノナリ又銀行紙幣  
ノ券面額ト其兌換金準備ノ方法トハ法律上  
ニ定クルヲ例トス是レ則テ銀行紙幣ハ公然  
タル支拂ノ具ニシテ國ニシテ鑄造シタル貨  
幣ト全シト雖モ為替ハ以テ強ヒテ支拂ニ充  
ル能ハサル所以ナリ銀行紙幣ノ兌換ハ法律  
或ハ法律上ノ威權ニ依リ之ヲ禁止或ハ停上  
スル下ナルモ為替ニ於テハ非常ノ際ニ於ル

支拂延期ノ令ヲ以テスルノ外然ルヲ得ス由  
是觀之為替ト銀行紙幣トノ間ニ重大ノ區別  
アリ紙幣及銀行紙幣ノ事ハ為換法ニ包含ス  
ルヲ得ス特別ノ法律規則ヲ以テ定メサルハ  
カラサルヤ明ナリ蓋シ此區別ヲホスニ特別  
ノ條ヲ以テスルハ必要ニ非ス第二條ニ於ル  
總概ノ指示ヲ以テ充分トスヘキナリ(レビ  
萬國商法第一冊第四百九十八葉)

第八百十二條 約束手形ハ振出人ノ指圖ニテ  
之ヲ振出スヲ得ス

振出人ヲ以テ指名者トスル約束手形ハ振出  
人ノ自己ニ支拂フヘキ約束ニシテ債主ト負  
債主者トシ一人ニスル負債ハ起ル能ハス法  
律上不可成的ノモノナレハ應ニ禁スヘキニ  
ノタリ此ノ如キ為替ハ更ニ他人ニ讓渡シ其  
賣却ヲ以テ金錢ト為スノ目的ヲ以テ振出ス  
ヲ得ルノミ然レ氏為替ニシテ初ヨリ無効タ  
ラハ其目的トスル裏書亦タ有効タル能ハス  
裏書ヲシテ有効ナラシムルニハ元來其為替

有効タラサルヘカラス故：右ノ如キ無効ノ  
為替ニ在テハ其裏書ニ至テモ亦無効タリ此  
主義ヤ獨逸法律學ニ於テ立テタルモニシ  
テ其當ヲ得タリ（バツシユ第四十一葉第九十六  
條注解ノ第一）為替手形ニ在テハ自分指名ニ  
シテ振出スルヲ得ル（第七百十七條）ト雖モ是  
レ約束手形ト異ニシテ支拂人ハ眞ノ為替負  
債者ニシテ振出人ハ其保證ヲ為スニ過キス

第八百十三條 約束手形ニ別段ノ支拂地ヲ掲  
ケサルモハ振出ノ場所ニ於テ其支拂ヲ為スル  
ヲ要ス

本條ハ既ニ第七百十六條及第七百二十條ニ  
述ル如ク為替面ニ特別ノ支拂地ヲ掲ケサレ  
ハ支拂人ノ住地ニ於テ支拂ヲハシトスル為  
替手形ノ原則ト照應スルモニシテ今夫日  
附ニ示ス所ノ地ハ必シモ振出人ノ住地タル  
ヲ要セス實際ニ於テハ其反對ニ出ルル少ク  
シトセス然レモ別ニ其地ヲ指サスルニ於テ  
ハ日附ノ地ヲ以テ該為替ノ權理上ノ關係ニ

標準トスヘキノ地ト看故サ、ルヲ得サルハ  
為替文言ノ法式的ナル性質之ヲシテ然ラシ  
ムルナリ又振出人ノ署名ニ特別ノ住地ヲ添  
地シタル時ハ之ヲ以テ支拂ノ地ト視サルヘ  
カラス何トナレハ人皆其住地ニ於テ義務ヲ  
履行スルモノナリトノ思料ヲ下シ得ヘケレ  
ハナリ約束手形ニシテ特別ノ支拂地ヲ掲ル  
モノハ即チ他所拂為替ニシテ為替手形ニ於  
ルト一般ナリ約束手形ノ他所拂為替ニ於テ  
ハ別地ニ於テ支拂フテ振出人ノ約束シタ  
ルモノニシテ佛國商法第百八十八條ニ依レ  
ハ約束手ニハ別ニ支拂地ヲ記スヘカラス振

出人ノ住地又ハ日附ノ地ヲ以テ支拂地ト視  
ル(ブラワール第三冊第五百卅九葉注解三)獨  
逸為替法第九十七條ニ於テ本條ト同一ノ  
規則アリ

第八百十四條 約束手形ノ振出人ハ其振出ニ  
因リテ満期日支拂ヲ為スノ義務ヲ負擔ス  
振出人ニ對シテ為替權利ヲ保全スルニハ引受  
シテ支拂ノ為メノ呈示ヲモ拒證書ノ作成ヲモ  
要スルヲ無シ然レモ一覽後定期拂ノ約束手形  
又ハ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニ在テハ其  
振出人ニ關シテモ第七百三十五條及ヒ第七百  
七十八條ノ規定ヲ適用ス  
約束手形ノ振出人即チ約束手形ニ對シテ一  
定ノ金額ヲ支拂フヘシト約シタル者ハ其署  
名ニ依リ為替手形ノ引受人ト全シク自然ニ



支拂ノ義務ヲ負フ是故ニ受取人ノ振出人ニ  
對スル為替上ノ權利ハ既ニ其振出ヲ以テ生  
シ別ニ引受又ハ不引受或ハ不支拂ノ拒證書  
ヲ以テ此權利ヲ領得或ハ保全スルヲ要セス  
(獨逸為替法第九十九條トヨール為替法第百  
五十五條)約束手形ニ於テモ裏書ヲ以テ讓渡  
ス下ヲ得之カ為メニ三人ノ関係者ヲ生ス曰  
ク為替所持人タル讓受人ニシテ支拂ヲ為ス  
ヘキ振出人曰ク裏書人即チ支拂ヲ保證シ其  
不支拂ノ場合ニ於テ償還要求ニ當ルヘキ裏  
書人はナリ而シテ此裏書タル逐次相重ナル  
下アルカ為メニ其裏書ノ數ニ應シテ為替ノ

保證人ヲ生スヘシ振出人ノ主要且結局ノ支  
拂保證人タルノ資格ハ此場合ニ於テ消滅シ  
第一ノ讓渡人ニ移ル蓋シ此保證人(振出人ト  
異ナル下恰モ為替手形ノ引受人ニ全シ)ノ為  
メニ引受或ハ呈示及拒證書ノ法式ヲ維持ス  
ヘシトノ説ヲ為ス下ヲ得ヘシ此ノ如キ規則  
ハ或ハ引受ニ係リテ設ケタル下ナキニ非サ  
ルモ深キ理由ナキ無益ノ法式ニ係ルモノハ  
之ヲ省クヲ良トス何トナレハ假令ニ引受ヲ  
為スモ其効力ハ振出人ノ署名ニ出ル効力即  
チ支拂ノ義務ヲ負フト云フニ出テサレハ十  
リ然レトモ他ノ為替義務者ニ對シ償還要求

權ヲ得セシムル為メノ法式ハ嚴ニ之ヲ踐マ  
サル可ラス即チ呈示ヲ為シ拒證書ヲ作り及  
之ヲ通知スルニ其時ヲ失ハサルハ必要ニ  
シテ若シ其時ヲ失ハハ償還要求ノ權ヲ失  
フモノトス又一覽後定期拂為替ニ係ル規則  
ハ満期日ヲ算スルノ初日ヲ定ムルノ必用ア  
ルニ出テ其他所拂為替ニ係ルモノハ他所拂  
人ヲ支拂人ニ比擬シ第七百三十五條及第七  
百七十八條ニ論シタル理由ト全一ナル理由  
ニ出ルモノナリ

第八百十五條 右ノ外為替手形ニ關スル規定  
ハ性質上抵觸セサルモノニ限り約束手形ニモ  
之ヲ適用ス

約束手形ハ支拂人ナキノ為替ニシテ為替手  
形ニ係ル規則ハ一切約束手形ニ適用スルヲ  
得サルト既ニ第八百十一條ニ述ヘタリ而シ  
テ右規則ハ主トシテ引受及為替資金ノ事ニ  
係ル但チ其為替資金ニ就テハ一ニ皆然リト  
スルニ非ス何トナレハ裏書人振出委託人亦  
タ為替資金ノ義務ヲ負フトナキニ非ス以テ  
振出人ハ之ニ對シ支拂人ト全シキ權利ヲ有

セサルヘカヲサレハナリ然レ氏此ノ如キ場  
合ニ於テモ引受ニ於ルカ如ク(第七百三十二  
條)為替資金ヲ受ケタルト否トヲ以テ為替支  
拂ノ義務ヲ論スルヲ得ス故ニ為替資金ヲ受  
ケサルヲ辭トシテ為替訴訟ニ故障ヲ申立ル  
ヲ得ス唯々為替資金ヲ出スノ約ヲ為シタル  
為替債主ヲ例外トスルノミ  
約束手形ハ満期日ノ後ニ至ラズ制限ナク裏  
書ヲ以テ讓渡スヲ得何トナレハ振出人ノ義  
務タル引受人ノ義務ト全シク制限ナク存続  
シ之ニ對シ呈示ヲ為シ拒證書ヲ作ルヲ要セ  
サレハナリ是ノ如ク満期日後ニ讓渡シタル

為替ハ支拂人ニ對シテハ一覽直拂ノ為替手  
形ニ全シ(假令ニ更ニ特別ノ満期日ヲ生スル  
ニ非サルモ)故ニ第七百二十七條ヲ此ニ適用  
スルハ振出人ニ對シ時ヲ失ハズ呈示シ及拒  
證書ヲ作ルノ必要アルヲ除キタルモニ止  
マル(第七百二十六條及第七百二十七條ノ說  
明)是ヲ以テ満期日ヲ過キタル約束手形ノ讓  
受人ハ假令ニ支拂拒證書ヲ作リタルトナキ  
モ振出人ニ對シテ充分ノ要求權ヲ有スルモ  
ノトス

獨逸法律(トヨール為替法第百五十五條)ニ於  
テハ約束手形ニ満期日ニ先テ支拂ヲ為スモ

危険ニ遭フトナシトノ説ヲ成ス是レ蓋シ他  
人(振出人)ノ委託ヲ以テ支拂ヲ為スニ非サレ  
ハ委託超越ノ危険アルトナシト云フニ出ツ  
是説タル其當ヲ得タリトスハカラス何トナ  
レハ振出人ハ獨リ真正ノ為替所持人ニ對シ  
責アルニ止マリ若シ盜或ハ贗造者等ニ支拂  
フタルトキハ之ヲ以テ其責ヲ免ル能ハサ  
レハナリ

佛國商法第百八十七條ニハ為替手形ニ係ル  
ノ規則ニシテ約束手形ニモ適用スヘキモノ  
ヲ列擧ス獨逸為替法九十八條ニハ之ヲ掲ケ  
テ仍一層ノ詳細ヲ加フ是レ本案ニ於テ採用

セス何トナシハ其實用少ク且多クハ適用  
スヘカラサルトアレハナリ例之ハ振出人ニ  
宛テタル逆為替ニ在テ振出地ト支拂地ト同  
一ナル時ハ為替相場(第百條)ノ算定ヲ為ス  
能ハス佛國法律ニ於テハ全所拂ノ為替ヲ禁  
スルカ故ニ此場合ニ於テ逆為替ヲ用ユルヲ  
得サルナリ若夫此外ノ差ハ既ニ前諸條ノ説  
明ニ明カナリ故ニ幾干ノ程度ニ於テ為替法  
ヲ約束手形ニ適用スヘキヤハ法官ノ判定ニ  
任スルヲ至良トシ本條ニハ唯々其標準ヲ示  
シ以テ事ノ自然ニ依リ除クヘキモノ、外(相  
當)ノ點ニ止マリ之ヲ適用スヘシト為セリ

第三節 引出切手

第八百十六條 引出切手ハ寄託其他ノ方法ニ依リ銀行ニ對シテ繼續スル信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依頼シ之ヲ記名セラレタル人又ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ呈示ヲ受ケ次第或ル金額ヲ支拂ハシムル手形タリ

債事ノ交通上ニ支拂切手ヲ用ユル一ハ近世ニ起リ十五年乃至二十年來始テ普ク行ハレタリ故ニ往時商法中ニ此切手ヲ記載スルハ最モ例外タリ

(和蘭商法ニ於テハ第二百二十一條乃至第二百二十九條ヲ以テ之ヲ定ムカツシール

ブリーフ即チ是レナリ)

(葡國商法ニ於テハ第四百三十條乃至第四百三十四條)

(獨國ニ於テハ抑モ引出切手ニ關スルノ法律ナシ銀行規則中ニ之ヲ定ム(商法雜誌第二十三卷附錄第二百零三十一葉以下)

(佛國ニテハ千八百六十五年七月十四日及千八百七十四年十二月十九日ノ法律アリ)

(白國ニテハ千八百七十三年六月二十日ノ法律)

(英國ニテハ千八百五十六年六月二十三日同年八月二日千八百七十六年八月十五

日ノ法律アリ)

以上掲クル所ノ法律ハ皆商法ニ算入スルト勿論ニシテ引出切手ハ之ヲ銀行ノ支拂傳票トシテ為替ノ一種ト視ル故ニ當世ノ商法草案ニ於テハ引出切手ニ關スル一章ヲ欠クヘカラス否ラサレハ完備ヲ失フ今夫レ從來ノ商法ナクシテ新ニ商法ヲ編纂スルニ當テハ之ヲ特別ノ法律ニ任放スルノ理由ナシ本案ニ依レハ引出切手ハ何レノ場合ヲ問ハス商事ニ屬ス何トナレハ引出切手又ハ引出切手通帳ハ唯タ銀行ニ限り發行スルヲ得之ヲ以テ銀行取引ノ一派トスレハナリ

支拂ノ為メニ引出切手ヲ授受スル所ノ非商人亦タ之カ為メニ直接或ハ間接ニ銀行ト取引ヲ為スニ至ル何トナレハ引出切手上ニ表スル義務ハ必ス銀行ヨリノ支拂ニ係リ第十  
六條ニ循ヒ商法ハ相手雙方ニ通用スヘキモ  
ノナレハナリ且引出切手ノ概子商事ニ屬ス  
ルナリハ商法及為替法ノ諸國教課書ニ徴シテ  
明カナリ是ヲ以テ引出切手ニ關スル爭論ハ  
必ス商法ニ循ヒ商事裁判所ニ於テ裁斷スル  
ナリ猶ホ為替ノ商人ト非商人及非商人相互ノ  
間ニ流通シ得ルカ如シ加之引出切手ニ在テ  
ハ獨リ銀行ニ於テ發行スルヲ通規トスレハ

右ノ理由一層大ナリトス  
千八百六十五年七月十四日ノ佛國法律第四  
條ニ依レハ商業取引ニ起因シ即チ商業取引  
ノ為メニ振出し或ハ交付シタル引出切手ニ  
限リ商事ニ屬スルト雖モ連帶義務拒證書及  
擔保ニ關スル商法上ノ原則ハ常ニ之ニ適用  
ス可キモノトセリ故ニ佛國ノ引出切手ハ其  
半ハ商事ニ屬ス是レ千八百六十五年ノ法律  
第一條ニ引出切手ヲ振出すハ銀行ニ限ラス  
各人之ヲ振出すトヲ得ヘシトスルヨリ生ス  
ル所ノ例外ナリ  
本案ニ於テハ引出切手ヲ以テ銀行支拂傳票

ト做スノ普通主義ニ依リ何レノ場合ヲ問ハ  
ス之ヲ商事ト視ル

白耳義ニ於テハ千八百七十三年ノ法律第三  
條ニ於テ引出切手ハ概子為替法ニ隨フヘキ  
モノトス

英國ニ於テハ引出切手ヲ以テ為替ノ一種ト  
為ス(「ミス」氏商法第百九十九葉注)

引出切手ハ主トシテ商業交通上ニ用エルヲ  
以テ第一ニ之ヲシテ商法ノ原則ニ服從セシ  
ムルヲ以テ緊要トス

引出切手ニ係リテハ數百年前ニ其迹ヲ求ム  
ヘシト雖モ廣ク之ヲ用エルハ大抵近世ニ叙

マリ最モ廣ク之ヲ用エル英國ニ於テモ初ノ

テ數十年來ノ擴張ニ係リ稍法律ヲ以テ之ヲ  
規定シタリ故ニ之ニ係ル法律上ノ主義今仍

確定セヌ千八百七十六年八月十五日ノ英國  
法律第三條ニ於テハ之ヲ釋シテ銀行ニ宛テ

タル為替手形即チ傳票ニシテ一覽ヲ以テ所  
持人或ハ其指名者ニ支拂フヘキモノトス此

法ニ由レハ引出切手ハ純然タル為替ニ非ス  
又通常ノ傳票ニモ非ス兩者ノ混合物ニ尋常

ノ為替法ノ原則ハ制限ナク之ニ適用スヘカ  
ラス唯引出切手ノ目的ニ合スルモノヲ限ト

シテ之ヲ適用スヘキナリ而シテ引出切手ノ



現金 = 代ル丁逸 = 為替 = 勝ルカ故 = 可及的  
其流通ヲ容易 = シ其法式ヲ簡 = セサルハカ  
ラス

凡引出切手ノ用ハ時ヲ異 = シテ領收スル所  
ノ金銭ヲ自己ノ住家 = 置ク = 代ヘテ之ヲ銀  
行 = 文付シ恰モ自己ノ金庫 = 貯蓄スルモ  
、如ク隨意 = 銀行ヲシテ之ヲ支出セシムル  
= 起ル而シテ右ノ領收亦タ引出切手ヲ以テ  
スル丁アリ以テ其金額ハ銀行 = 於テ權利者  
ノ為メ = 徴收スルモ、ナルカ故 = 引出切手  
ヲ以テ支拂及領收スル丁一般ノ用トナリ以  
テ引出切手ヲ以テスルノ出納ヲ同一銀行ノ

牒簿上 = 書替へ或ハ數銀行間ノ差引計算ヲ  
以テスルカ為メ = 現金ノ支用ヲ無益トナス  
= 至レリ故 = 引出切手ノ用ハ獨リ各箇人ノ  
便益 = 止マラス時々領收金員ヨリ利子ヲ得  
ルノ利益アリ又常々是ノ = ナラス流通ノ金  
錢ヲ銀行 = 集合シ以テ金銭ノ使用少ナクシ  
テ信用ヲ流通スルノ用大 = 増加スル一般ノ  
巨益ヲ為ス引出切手ノ使用ハ既 = 論スルカ  
如ク銀行ノ取引 = 屬ス何トナレハ得意先ノ  
不用金ヲ集合シテ之ヲ經理スルハ獨リ銀行  
ノ能クスルモノニシテ引出切手ヲ一個人ニ  
用ユルハ實際 = 適セス以テ採ルハカラサル

ノ法ナレハナリ又為替ハ遙ニ引出切手ニ勝  
ルノ流通範圍ヲ有シ商人總體ノ信用殊ニ百  
種ノ資本即チ流通スヘキ財産ニ基クモノナ  
リト雖モ引出切手銀行ニ於テ積立ツヘキ當  
時不用ノ資金ニ基キ支拂ニ於テ此不用ノ資  
金ニ代用セラルモノナリ故ニ為替ニ於テハ  
商品或ハ家屋ヲ以テ為替資金ニ充ルヲ得ヘ  
シト雖モ引出切手ニ在テハ當時其用ナク其  
囊中ニ藏ソ得ヘキ金錢ニシテ安全ト便利ト  
ノ為メニ銀行ニ交付シタルモノヲ以テ其資  
金ト為スニ止マル然レ氏此ノ如キ引出切手  
ノ境界ハ特別ノ約束ヲ以テ擴張シ獨立ノ引

出切手上ノ信用トシテ此境界外ニ出ルヲ  
許ス唯々其為替上ノ信用ニ比スレハ遙ニ其  
境界ヲ狭クセサルヘカラス是ヲ以テ引出切  
手ヲ以テスルノ支拂ハ恰モ現金ヲ以テスル  
支拂ニ異ナラサル安全ヲ呈セサルヲ得ス而  
シテ法律モ此ニ注意シテ計畫セサルナリ  
苟モ然ルハ引出切手ハ自己ノ金錢ヲ以テ  
スルノ支拂ニシテ為替手形ハ他人即チ支拂  
人若クハ振出人ノ金錢ヲ以テスルノ支拂タ  
ルト明瞭ナリ是レ下ニ直ニ示スカ如ク枝葉  
ニ於テ異ナルトナキニ非サルモ其大體ニ於  
テ然ラサルトナシ此點ヨリ論スレハ引出切

手ハ抑エ信用証券ニ非スシテ唯々現金ノ代  
物タリ然レ氏銀行ハ其寄託セラレタル金額  
全部ヲ定常備置クラ要セス唯々時々兌換ノ  
為メニ呈示セララル、引出切手ノ金額ニシテ  
書替又ハ差引ヲ以テ消却セラレサルモノニ  
限り之ヲ支拂フニ足ル氏ハ既ニ充分タリ又  
引出切手ハ當ニ寄託セラレタル現金ノミナ  
ラス為替其他ノ諸債ヲ引當トシテ之ヲ振出  
ス下ヲ得ヘシ故ニ引出切手亦々信用証券ト  
ナリ引出切手ヲ以テスル支拂ハ為替ヲ以テ  
スルモノト全シク亦信用ノ支拂タリ是レ則  
チ引出切手ノ和蘭商法ニ記載セル「カツシ」

ルブリー「フ」或ハ「カ」ツセンシヤイ子「前」ニ出ツ  
ト異ナル所以ニシテ期ノ如ク擴張セラレタ  
ル引出切手ノ信用証券タル性質ハ今日ノ需  
用及銀行交通ニ適スルモノナリ此關係ニ依  
レハ概子引出切手ノ振出人ハ與信用者ニシ  
テ銀行ハ受信用者タルヲ常トス唯々其銀行  
ヨリ引出切手上ノ信用ヲ與ヘタルトキニ限  
リ其振出人亦々受信用者トナル而シテ支拂  
ニ於テ支拂切手ヲ受ケタル者ハ振出人ト銀  
行トノ間ニ存スル信用ノ關係ニ與カラサル  
モノトス唯々其兌換ノ遲滞ノ為メニ信用ヲ  
與ヘ或ハ自カラ銀行ノ得意先トシテ其與信

用者或ハ受信用者タルハ此限ニ在ラス蓋  
シ引出切手ハ各個ニ備金ヲ有スル銀行紙幣  
ト稱スルヲ得ヘシ何トナレハ是レ各振出人  
ノ銀行備金ヲ以テ兌換セラレサルヘカラス  
以テ銀行紙幣ト同シク現金ニ代ルモノナレ  
ハナリ又之ヲ實驗ニ徵スルニ引出切手ノ通  
用ニ由テ大ニ銀行紙幣ノ發行ヲ不用トスル  
ニ至レリ

是ヲ以テ銀行手形ト通常ノ手形トハ之ヲ區  
別セサルヘカラス引出切手ヲシテ公然タル  
流通ヲ得セシムヘキ確乎普通ノ信用ヲ有ス  
ルモノハ銀行ニ限ルカ故ニ引出切手ハ必ス

銀行手形タリ其各個人間ノ手形ハ之ニ反シ  
偶然ノ事情ニ基ク何トナレハ何人タリトモ  
經常自己ノ金銀ヲ他人ニ預クルトナク手形  
ノ受容ハ臨時特別ノ約束ニ出ルト通常ノ契  
約ト同一ナレハナリ而シテ引出切手ハ廣ク  
銀行紙幣ニ代ルヲ得ルモ通常ノ手形ハ然ラ  
ズ何トナレハ引出切手ノ流通ハ公認セラレ  
タル銀行的ノ信用ニ基テハナリ又引出切手  
ハ連續計算ヲ以テ保管セラレタル金額ヲ支  
拂ニ用ニ或ハ他人ノ支拂ヲ受ルニ甚タ便利  
ナル方便タリ是ヲ以テ千八百六十五年七月  
十四日ノ佛國法律第四條ニ引出切手ノ商品

ニ屬スルヲ是認セサルハ謬見タルヲ免レ  
サルヤ疑ナシ何トナレハ引出切手ノ性質銀  
行證券ニ屬シ獨リ銀行之ヲ發行シ各箇人ハ  
唯タ之ヲ循環セシムルニ過キサルヲ知ラ  
サレハナリ故ニ此引出切手ヲ流通スルノ原  
因タル取引ノ性質如何ハ之ヲ問フヲ須ヒ  
ス何トナレハ唯タ銀行的ニ備金ヲ爲シタル  
信用ノ流通ヲ行ナフヲ主眼トスレハナリ  
本案ニ引出切手ハ必ス銀行ニ宛テタル傳票  
タルヘシト定ムルノ理由ハ以上説明セル所  
ヲ以テ充分明瞭ナルヘシ既ニ述フルカ如ク  
千八百七十六年八月十五日ノ英國法律第三

條ニ引出切手ヲ釋シテ曰ク銀行ニ宛テタル  
切手即チ指圖ニシテ某人即チ所持人ノ請求  
ニ應シテ支拂フヘキモノナリト而シテ英國  
ニ於テモ之ヲ實際ニ徵スルニ右ニ述タル通  
常ノ手形ノ外ニ引出切手アルヲ見サルナリ  
且其他左ニ掲クル所ノ數項ハ引出切手ニ記  
スヘキモノトス

- 一、支拂フヘキ金額
- 二、支拂ヲ受クヘキ人
- 三、引出切手ハ必ス呈示ニ依リ支拂フヘキナリ
- 四、引出切手ヲ振出スニハ該銀行ニ於テ得タル引出切手上ノ貸方ニ基クヘキナリ

支拂ヲ受クヘキ者ハ記名シタル人又ハ所持  
人タルヲ得ヘシ右ニ記スル千八百七十六年  
ノ英國法律第四條及千八百六十五年ノ佛國  
法律第一條(所持人又ハ記名者宛ニ振出ス  
ヲ得)ニ於テモ同一ノ規則ヲ掲ク獨逸ノ帝國  
銀行規則ニ循フモ現金支拂ノ為メニスル白  
色ノ引出切手ハ無記名ニテ振出スヲ得紅色  
ノモノハ之ニ反シテ其名ヲ記セサルヘカラ  
ス且之ヲ讓渡ス下ヲ得ス(商法雜誌第二十三  
卷附錄第二百三十三葉)實際ノ取引ニ於テハ  
主トシテ無記名ノ引出切手行ナハル然レモ  
此切手モ亦最初ノ所持人ニ限り其名ヲ記ス

ル下多シ無記名ノ引出切手ニ於テハ盜難遺  
失スル下アリト雖モ是レ注意ヲ以テ免ル可  
ク且現金紙幣及銀行紙幣ニ於テモ亦然ラサ  
ルナシ記名ノ引出切手ハ流通ノ現金ノ如ク  
利用セラル、効用ニ於テ乏シキ所アリ何ト  
ナレハ其讓渡ニ一層ノ手續ヲ要シ且其讓渡  
人ニ保證義務(是レ現金若クハ銀行紙幣ノ流  
通ニ於ル如ク全ク成ルタケ除ク下ヲ是トス)  
ヲ負ハシムレハナリ故ニ引出切手ニハ必ス  
記名アルヘシトノ規則ハ甚タ其目的ヲ害ス  
ルヲ以テ本案ニ之ヲ採用セス  
引出切手ハ請求ニ從ヒ直ニ支拂フヘシトノ

規則ハ英佛二國ノ法律ニモ掲クル所ニシテ  
是レ引出切手素ト現金支拂ニ代用ス可ク即  
チ現場取引ニ用ヒ定期取引ニ用ヒサルカ為  
メニ然リ今ヤ満期日ヲ隔ル引出切手ハ殆ト  
為替ト異ナルトナク且其取引ヲシテ定期取  
引トナスニ至リ終ニハ現金若クハ銀行紙幣  
ヲ以テスルニ非カレハ現場取引ヲ為ス能ハ  
サルニ至ラン是レ引出切手ノ公私ノ用ヲ廢  
スルニ至ル言ヲ俟タスシテ明カナリ且引出  
切手ノ確然普通ノ流通力ヲ得ルハ獨リ右ノ  
規則アルニ依ル何トナレハ人皆何レノ時ニ  
於テモ幾何ノ金額ヲ銀行ニ有スルヤヲ知ル

トヲ得之カ為メニ引出切手通帳ヲ設クルモ  
ノナリト雖モ將來幾干ノ金額ヲ銀行ニ預ク  
ヘキヤニ至リテハ何人タリトモ之ヲ確知ス  
ル能ハス殊ニ現場取引ヲ為サントシ利子及  
危険ヲ論セスシテ債額ヲ定ムルニ於テハ他  
人此點ニ就テ危険ヲ擔當スルトヲ欲セサル  
ヤ明ナレハナリ故ヲ以テ引出切手ハ當ニ直  
ニ支拂フヘキノミナラス遲延ナク支拂ノ為  
メニ之ヲ呈示スルヲ要ス若シ之ヲ遲延スル  
者ハ自ラ其危険ニ當ラサルヲ得ス  
英國ノ法律(ゲソルク第三世即位四十八年第  
八十八章第二款)ニ於テハ二十「シルリク」五

弗(満)タル引出切手ハ全ク無効トス此ノ  
如キ制限ハ充分ノ理由アリテ存スルニ非  
ス何トナレハ若シ引出切手ヲ振出スニハ實  
ニ銀行ニ存スル信用ニ基クヘシトノ規則ヲ  
守ルニ於テハ名而已ノ引出切手ヲ振出し以  
テ銀行ノ信用ヲ濫用スルノ弊害ヲ生フル  
難ケレハナリ且此問題ヤ寧ロ引出切手取引  
業派上ノ組織ニ係ル便否ノ事ニ属スルモノ  
ニシテ銀行規則ニ任放シテ可ナリ是ヲ以テ  
引出切手ノ金額ニ最下限ヲ定ムル銀行アリ  
又此ノ如キ制限ヲ設ケサルモノアリ  
凡引出切手上ノ信用ヲ與フルニハ連續計算

ヲ以テ金額ヲ銀行ニ預クルヲ以テスルヲ  
常トス故ニ其拂戻シノ期日ナシ其預ケ主ハ  
時ヲ擇ハス引出切手ヲ以テ銀行ニ在ル寄託  
物ヲ處分スルヲ得ヘク寄託物ニハ低下ノ  
利子ヲ付スルヲ多シ其寄託物ノ額ヲ超過シ  
テ引出切手ヲ振出ス可ラス銀行ハ少ナクモ  
之ヲ支拂ノ義務ナク若シ超過ノ引出切手ヲ  
振出シタル時ハ其振出人トノ銀行取引ヲ拒  
絶スルヲ得ヘシ是レ則チ引出切手上ノ信  
用ノ備金ニ常例トスル所ナリ然レ氏必ス此  
範圍内ニ限ルニ非ス銀行ハ實ノ寄託物ナク  
或ハ其時寄託セラレタルモノナクシテ引出



切手上ノ信用ヲ與フルヲ得ヘク是レ固ヨ  
リ禁スヘキニ非ス其得意先トノ協議ハ之ヲ  
銀行ニ任放セサルヘカラス例之ハ五月三十  
日ニ既ニ其貸方ヲ悉クシ六月三十日ニ至ラ  
サレハ再ニ貸方ト為ル能ハサルニ己ニ六月  
一日ニ支拂ヲ為サント欲スル等ノ場合ニ於  
テハ引出切手上ノ信用ヲ利用スルトヲ禁ス  
可ラサルヤ朋カナリ(商法雜誌第十卷第三十  
三葉)又引出切手ヲ振出スニハ銀行ニ於テ有  
スル貸方(寄託物)ヲ以テスルト他ノ與信用ヲ  
以テスルトヲ問ハスニ基カサルヘカラス唯  
タ其支拂ヲ得ントノ期望而已ヲ以テ足レリ

トセズ(為替ニ在リテハ然ルヲ得ルニ)右ニ記  
スル佛國法律第二條ニ前以テ備金ヲ為スト  
ラ必要トスルノ規則ハ此意ニ於テ了解スヘ  
シ而シテ此規則ノ文言ハ備金ナキノ信用ニ  
係リテ矛盾スルトナシ是レ該法律第一條  
ニ此備金ヲ名ケ支拂人(銀行)ニ於テ振出人ノ  
貸方トシタル資金ト稱スルニ徴シ又佛國商  
法第百十六條ニ為替資金ハ直接ニ現金ヲ備  
ヘサル信用ヲ以テ之ニ充ルヲ得ヘシト定ム  
ルニ徴シテモ明ナリ然レモ信用ノ貸方ハ唯  
タ引出切手ノ呈示ノ時ニ存スヘキニ止  
マラス既ニ其振出ノ時ニ存セサルヘカラス

何トナレハ此ノ如クニテ振出人其支拂ノ指  
圖ヲ為ス所ノ金額果シテ其處分シ得ヘキニ  
ノタルヲ知リ其切手ノ受取人ハ此事由アリ  
テ初メテ現金ト同シク切手ヲ受取り又他ニ  
之ヲ移ストテ得ヘシ此規則ニ引出切手ノ振  
出ト呈示トノ間期日甚短縮ナルノ一點ヨリ  
論ニテモ殆ント言ヲ俟タスシテ明ナリ為替  
ニ在テハ之ニ異ニシテ幾月間ヲ隔テ、満期  
日ヲ定ムルヲ例トス

第八百十七條 引出切手ニハ日附ヲ為シ振出人署名捺印ス可シ又引出切手ハ一覽拂トスルニ非サレハ之ヲ振出ストテ得ス其他銀行ト明示又ハ默示ニテ約定シタル振出ノ方式ハ之ヲ遵守スルヲ要ス

本條ノ規則ハ既ニ前條引出切手ノ大要性質ノ説明ヲ以テ明ナリ引出切手ヲ振出スニ一覽直拂ヲ以テスルハ引出切手ノ支拂ハ現金支拂ト同シカラサルヘカラス此點ヨリ論スレハ銀行紙幣ヲ以テスル支拂ト異ナラサルニ依ル日附及振出人ノ署名捺印ハ振出ノ成該銀行ニ備金即チ貸方ヲ有セサルヘカラサ

ルカ為ソニ必要ナリ日附十キ或ハ署名捺印  
十キ引出切手ハ法律上ノ判決ニ必要ナル文  
言ヲ備ヘサル所ノ不完全ナル證書ニシテ之  
ニ依リテ一モ權利上ノ要求ヲ起ス不能ハサ  
ルヘシ銀行ニシテ此ノ如キ切手ヲ支拂フ時  
ハ假令ヒ詐偽ノ論スヘキ十キモ銀行自ラ其  
危険ニ當ラサルヲ得ス  
其他ハ引出切手ニ付特別ノ法式ヲ定メス唯  
タ銀行ノ規則ニ由テ定メタル法式循フハキ  
モノトス法式ハ大略引出切手通帳ニ就テ知  
ルヘク引出切手通帳ハ其得意先ニ交付スル  
モノニシテ之ニ時々集リ來ル貸方(殊ニ寄託

物)及連續ノ切手振出ヲ逐次ニ記載ス引出切  
手ハ皆其牒簿中ヨリ擊破シ之ヲ受取人ニ渡  
シ其一小紙片ヲ牒簿ニ止ム此紙片ハ監査及  
備忘ノ為メニ切手面ニ記載シタル概略ヲ復  
記シタルモノナリ各得意先ハ二箇ノ引出切  
手通帳ヲ受取り其一ハ貸方ニ供シ他ノ一ハ  
引出切手ノ振出即チ支拂ノ指圖ニ具フ而シ  
テ此牒簿ヲ謹シテ儲藏シ且密ニ之ニ登録ス  
ルノ責ハ其得意先ニ在リ而シテ此牒簿ノ取  
扱ニ一定ノ法式アリ各銀行皆之ヲ得意先ニ  
要求シ得ハキハ勿論ニシテ此外尚口演ヲ以  
テ引出切手金額ノ最下限或ハ呈示ノ時間等

ヲ告知スルヲ得ヘシ  
此ノ如キ通帳ヲ受取ル者ハ其銀行ニ行ハル  
ル引出切手取引ノ法式ニ隨フヘキヲ黙約  
シタルモノナリ

第八百十八條 引出切手ハ裏書ヲ以テ之ヲ轉  
付スルヲ得若シ白地ニテ裏書讓渡ヲ為シタ  
ル内又ハ無記名式ニテ振出しタル内ハ交付ニ  
因リテ之ヲ轉付スルヲ得

引出切手ヲ以テスル支拂ハ信用ノ融通ノ一  
種タルヲ恰モ金銀貨ヲ以テスル支拂ノ金錢  
融通ノ一種タルカ如此兩者ノ間ニハ區別  
ナキニ非ス金銀貨ハ際限ナク甲ヨリ乙ニ運  
轉スルモノニシテ其運用一回ニ止マラス其  
紙幣及銀行紙幣ニ於ルモ亦タ同シ但タ之ニ  
反スルノ規則アレハ然ラス例之ハ英國ノ銀  
行ニテハ銀行紙幣ヲ收入シ或ハ兌換シタル

時ハ再ヒ之ヲ頒行スルヲ許サス直ニ之ヲ破却スヘシトノ規則アリ故ニ之ヲ收入シタルヤ直ニ之ヲ摩裂シテ再度ノ融通ヲ得サラシム引出切手ニ於テハ右兩法何レモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ即チ直接ニ最初ノ受取人ヨリ支拂ノ為メニ之ヲ呈示スルヲ得ヘシ然ルモハ再ヒ之ヲ通用スルヲ得サラシム又其最初ノ受取人ヨリ他人ニ讓渡シ第三第四若クハ第十ノ受取人等ヨリ實ノ支拂ヲ請求シテ拂受クルモ可ナリ其他少ナクモ斜線ヲ引キタル後ハ(第八百二十一條)直ニ最初ノ受取人若クハ其代人ニ於テ拂受ルノ法ナシトセス

然レ氏引出切手ヲ次ノ受取人ニ讓渡スルヲ禁スルノ理由ナシ而シテ此讓受人ハ為替ノ讓受人ニ類スル所アリ又其切手無記名ナルモハ無記名為替ノ所持人ニ類ス唯タ引出切手ニ在テハ償還要求權ノ施行ヲ大ニ制限セサルハカラス(第八百二十條)然リト雖モ無記名引出切手ニ於テ唯タ其引渡而已ヲ以テ讓渡スハ便宜ニシテ且引出切手ノ性質ニ適スルモナリ何トナレハ引出切手ハ殆ント現金ト看做シ以テ其讓渡ハ現金ト同シク容易ナラサルヘカラサレハナリ又何トナレハ眞個ノ信用關係ハ唯タ振出人ト銀行トノ間ニ

存シ其義務ヲ主トシテ負擔スル者ハ振出人  
ニシテ中間ノ所持人ハ比例的其義務少ナキ  
カ故ニ裏書ノ力亦タ隨テホナレハナリ今ヤ  
引出切手ハ必ス記名タルヘク以テ其記名ノ  
人而已ニ支拂フヘキモノトスレハ拾得竊盜  
等ニ生スルノ紛失及詐偽ヲ阻遏スルノ利ア  
リトノ説ヲ為スモノアラハ之ニ答ヘテ言ハ  
ン曰ク此點ニ就テハ引出切手ニ為替及其他  
ノ指圖證券ニ勝ルノ保護ヲ得ル能ハス為替  
等ニ就テハ第四百條ノ例規ヲ用ユヘキモノ  
ニシテ誤リテ其權ナキ人ニ支拂フタリトモ  
惡意若クハ太過ノ場合ニ限リ其責ニ任スヘ

キナリ故ニ引出切手ノ支拂ハ記名シタル人  
ニ限ルトノ規則ハ必スシモ前ニ述ル紛失  
詐偽ヲ防クニ足ラサルナリ以テ水案ニ於テ  
ハ裏書或ハ唯タ引渡ヲ以テ引出切手ヲ讓渡  
スナラシ得セシメタリ若夫裏書ニ就テハ為替  
裏書ノ原則ヲ守ルヘシ又白地裏書ニ之ヲ禁  
スヘカラス何トナレハ中間所持人ハ之ニ依  
リテ悉ク義務ヲ免ル、ヲ得レハナリ千八百  
六十五年ノ佛國法律第四條ニ於テモ為替ノ  
裏書及裏書人ノ義務ニ關スル原則ハ引出切  
手ニモ適用ス可キモノトス千八百七十三年  
六月二十日ノ白耳義法律第二條及第三條ニ

循フモ英國ノ商業習慣ニ依ルモ亦タ然リ(口  
ウヒ)萬國商法論第一卷第四百八十五條(引  
出切手ノ讓渡ニ於ル特種ノ方法ハ斜線記載  
是レナリ之ニ就テハ第八百二十一條ノ規則  
アリ

第八百十九條 引出切手ハ引受ヲモ拒證書ヲ  
モ要スルナシ又引出切手ハ日附後三个年ヲ  
以テ時効ニ罹ル若シ引出切手ヲ振出ノ日ヨリ  
三日内ニ支拂ノ為メ呈示セズ又ハ送付セサル  
片ハ所持人ハ遲延ノ結果ヲ負擔ス  
引出切手ハ約束手形ノ如ク振出人自ラ支拂  
ハントノ約束ニ非ラズ他人ニ宛タル手形ナ  
リ然レモ又為替手形ニ於ルカ如ク引受ヲ要  
セス何トナレハ銀行ハ寄託物等ノ借方アル  
カ為メニ必ズ其支拂フノ義務ヲ負ニ隨意ヲ  
以テ諾否ヲ言フヲ得サレハナリ今ヤ引出切  
手得意先ノ貸方ハ其處分ニ得ヘキ備金ト視

テ時ヲ擇ハス銀行ノ引受ヲ須タス處分シ得  
ヘキモノタリ英國(レ)ウビー(レ)氏萬國商法論第  
一卷第四百八十八葉及佛國ニ於テモ亦タ同  
シク千八百六十五年ノ佛國法律第二條ニ呈  
示ニ應シテ支拂フヘシトノ文アリ是文ハ消  
極的ニ見解ヲ下スヘク即チ所持人ハ其要求  
ヲ以テ(即チ引受ヲ須タス)拂受クヘキノ權利  
アリトノ謂ナリ何トナレハ呈示ニ依リテ支  
拂フヘキ積極的ノ規則ハ既ニ第一條ニ掲ク  
レハナリ又千八百七十三年六月二十日ノ白  
耳義法律第三條ニモ全一ノ規則アリ(少ナク  
モ間接ニ)何トナレハ引出切手ニ適用スヘキ

為替法ノ箇條中為替引受ニ關スル原則ヲ該  
條ニ援用セサレハナリ而シテ義務上ノ關係  
ハ獨リ振出人ト銀行トノ間ニ存シ引出切手  
ノ所持人ハ該金額ヲ銀行ヨリ受取ルノ委任  
ヲ受ケタルニ過キサレハ振出人ノミニ對シ  
テ支拂ノ義務ヲ有スル者ハ銀行ナリ又銀行  
ハ他ノ一方ニ於テ自カラ引受ノ旨若クハ氏  
名ノ頭文字ヲ引出切手ニ書シ以テ其所持人  
ニ對シテモ義務ヲ擔當スルヲ得ヘク之ヲ  
禁スルノ理ナシ然レ氏是レ銀行ノ義務ヲ起  
ス為メニ必スシモ要用トスルニ非ス又實際  
ニ於テモ慣用スルヲ多カラス何トナレハ呈



示 = 依り直 = 支拂ヲ為スヘキモノナレハ十  
リ  
支拂ヲ得サリシ引出切手 = 就テ拒證書ヲ作  
ル丁 = 關シテハ佛國 = テハ千八百六十五年  
ノ法律第四條白國 = テ千八百七十三年ノ法  
律第三條ヲ以テ為替ノ拒證書 = 係ル原則 =  
循フヘシト定メタリト雖モ本案ハ英國法律  
ヲ採用シテ此ノ如キ規則ヲ設ケス是レ一ハ  
不用ノ法式ヲ堆積スル丁ヲ避ケ引出切手ノ  
全取引ヲ簡便 = セン為ノ一ハ引出切手ハ容  
易 = 遠隔ナル地 = 流通スルモノ = 非ス不支  
拂ノ確定 = 公認ヲ經ルヲ要セス殊 = 銀行 =

テ支拂ヲ拒ムハ未タ其支拂無能力ヲ表スル  
= 非サレハ又隨テ緊要ノ事實 = 非サル為ノ  
ナリ加之引出切手 = 於テハ振出人獨リ主要  
ノ責任アリ一人ノ為ノ = 拒證書費用ヲ(假令  
ニ立替 = 止マルモ)所持人 = 為サシムルノ理  
ナシ故 = 引出切手ノ所持人ハ其支拂ナキノ  
事實ヲ單 = 振出人 = 報告シ併セテ賠償要求  
ヲナスヘシ銀行 = シテ支拂ヲ為サ、ル時ハ  
振出人満期日 = 至リ其負債ヲ支拂ハサリシ  
モノト同視スヘシ又時ヲ失ナハス通知(第七  
百八十一條)スル丁 = 係ル法式モ引出切手 =  
於テハ要スル丁ナシ

三年時効ハ為替ニ於ルモノト同一ニシテ即  
チ千八百七十三年ノ白耳義法律第三條ニ為  
替時効ノ期限ヲ引出切手ニ適用シタルカ如  
シ

英國ニテハ一切ノ負債及契約義務(特別ノ名  
稱ナキ證券ニ限リ)ニ於ルカ如キ六ヶ年ノ普  
通時効ヲ引出切手ニ適用ス佛國ニ於テ又商  
法第百八十九條ニ循ヒ五ヶ年ノ為替時効ヲ  
引出切手ニ適用ス引出切手ノ時効ヲ短クス  
ルハ必要ナリ何トナレハ引出切手ハ出納ノ  
事ニ屬スルモノニシテ遲延ナク整頓セサル  
ヘカラサレハナリ然レモ三ヶ年ヲ以テ時効

トスルモノハ唯タ切手上ノ要求權ニ止マリ  
切手ニ記シタル金額即チ賣價運賃及負債ノ  
利子等ヲ要求スルノ權利ハ之ヲ失フナシ

第 八 百 二 十 條 呈 示 ノ 上 ニ テ 支 拂 ヲ 受 ケ サ ル

中 ハ 日 附 後 十 日 内 ニ 所 持 人 ハ 裏 書 讓 渡 人 若 ク

ハ 振 出 人 ニ 對 シ 裏 書 讓 渡 人 ハ 其 前 者 若 ク ハ 振

出 人 ニ 對 シ テ 償 還 請 求 權 ヲ 有 ス 然 レ 氏 振 出 人

ニ 對 シ テ ハ 振 出 人 カ 信 用 ヲ 有 セ ス 又 ハ 信 用 ヲ

消 盡 シ 又 ハ 依 頼 ヲ 取 消 シ タ ル 氏 ハ 右 期 間 ノ 満

了 後 ト 雖 モ 償 還 請 求 權 ヲ 有 ス

振 出 人 ハ 争 ア ル 場 合 ニ 在 テ ハ 其 引 出 切 手 帳 ヲ

裁 判 所 ニ 差 出 ス ノ 義 務 ア リ

前 ニ 述 タ ル 如 ク 引 出 切 手 ハ 許 多 ノ 人 ニ 續 々

讓 渡 ス 十 十 ク 唯 タ 之 ヲ 現 金 支 拂 ノ 手 形 ト 視

テ 所 持 人 ハ 直 ニ 該 銀 行 ニ 於 テ 支 拂 ヲ 受 ル ヲ

得又受テサルヘカラサル<sub>レ</sub>其性質ノ然ラシ  
ムル所ナリ所持人若シ之ヲ遅延スル時ハ自  
カラ其危険ニ當ラサルヘカラス何トナレハ  
振出人ハ支拂切手ニ依リ既ニ間接ニ金員ヲ  
所持人ニ支拂フタルモノナレハ此金高ニ關  
シ他ノ義務ヲ負擔スル能ハサレハナリ今ヤ  
引出切手ヲ振出シタルヤ其金額ハ引出切手  
所持人ノ計算ト危険トヲ以テ銀行ニ藏スル  
モノナリ故ニ其銀行破産シタル時ハ所持人  
其損害ヲ負擔セサルヘカラス是ヲ以テ英國  
ニ於テハ遲クモ其振出ノ翌日銀行ノ營業時  
間中ニ支拂ノ為メ之ヲ呈示シ若シ其地ヲ

異ニスルキハ遲クモ此時間中ニ兌換ノ為メ  
發送スヘシト定ム然レモ呈示ノ遲滞ハ銀行  
ニ對スルモ振出人ニ對スルモ引出切手上ノ  
權利ヲ失ハシムルニ非ス唯タ其遅延ノ為  
メニ損害生シタル場合ニ於テハ其延滞ノ責  
アル所持人其損害ヲ負擔シ其責ナキ振出人  
ハ然ラズ若シ其金高ニシテ無事ニ銀行ニ在  
ルキハ後ニ至リテモ所持人隨意ニ拂受クル  
ト得ヘシ引出切手支拂ノ地ヲ同シフスル  
ト異ニスルトニ從ヒ千八百六十五年ノ佛國  
法律第五條ニハ呈示期限ヲ五日或ハ八日ト  
シ千八百七十三年ノ白耳義法律第四條ニハ

三日或ハ六日トス若シ其呈示ニシテ此期限ノ経過セシ後ニ在ルキハ其裏書讓渡人ニ對スル償還要求權ハ消滅スルト雖モ振出人ニ對スルモノハ銀行ニ於テ其切手ノ備金ヲ失ナフタル時ニ非サレハ仍存スルモノトス本按ニ於テハ支拂ノ為ソ引出切手ヲ呈示スル期限ヲ三日トス又不支拂トナリタル引出切手ニ依リ償還要求權ヲ施行スルニ就テハ其振出ノ日附ヨリ數ヘテ十日間ノ期限ヲ定メタリ即チ十日後ニ至ルキハ償還要求ヲ失ナフ然レモ諸國ノ法律ニ於ルカ如ク振出人ハ自己ノ罪過アレハ十日ノ後タリトモ義

務ヲ免ル、能ハサルト明證ヲ須タス故ニ振出人ハ十日以内ニ支拂ノ要求ナキニ方リ其金額ヲ他ニ支用シ或ハ其指圖(傳票)ヲ取消スルヲ得ス何トナレハ引出切手ヲ振出シタルカ為メニ其金額ハ所持人ニ屬シ其振出シタル以來振出人ノ處分權消滅シタレハナリ又引出切手ノ貸方ナクシテ引出切手ヲ振出スルハ是レ不正ノ行為ニシテ其責任ハ通常ノ時効期限内存續スルモノニシテ十日ヲ經テ免ルヘキニ非ス佛國及白國ノ法律ニ此意ヲ表シテ曰ク銀行ノ所為ニ由リ備金喪失シタル時ハ振出人モ亦タ裏書讓渡人ノ如ク義務ヲ免

ルヘシト今此主義ニ依ルキハ備金ノ存スル  
トト銀行ノ所為ニ由テ喪失シタルトトハ故  
障ノ口實ト為ストヲ得ヘク之ヲ證明スルハ  
被告タル振出人ノ義務タリ本按ニ依レハ右  
ノ事實ハ原告タル所持人ノ十日後ニ於テ起  
ス所ノ賠償要求權ノ基礎トナスヘキモノニ  
シテ普通ノ原則ニ循ヒ所持人其證ヲ舉ケサ  
ルヘカラス是レ當々原則上其當ヲ得タルノ  
ミナラス又實際ニ便宜ナリ何トナレハ呈示  
及償還要求ヲ延滞シ舉證義務ノ危険ニ當ル  
トヲ免レントノ刺激ヲ與フレハナリ  
所持人ニ在テハ證據ヲ舉クルト困難ナリト

セス何トナレハ銀行ノ陳述ト引出切手通帳  
ノ覽閱ヲ以テ之ヲ舉ルト容易ナレハナリ故  
ニ請求ニ應シ此通帳ヲ裁判所ニ差出スヘキ  
義務ヲ振出人ニ負ハシムルハ必要ナリ今假  
令ニ引出切手通帳ハ眞個ノ商業簿ニ非ス  
非商人モ亦之ヲ有シ得ヘキト雖モ右ニ就  
テハ第三十七條ノ規則ヲ擬用スヘシ蓋シ引  
出切手通帳ハ貸方ト借方トヲ問ハス某人日  
々ノ引出切手取引ニ係ル景況ヲ熟知セシム  
ルモノナルカ故商業簿ト同一ノ關係ヲ有  
スルモノトス又見解ニ依リテハ引出切手通  
帳ヲ以テ雙方ノ共同證據書ト見做ストヲ得

第八百二十一條 振出人又ハ所持人ハ引出切

手ニ斜線其他ノ符號ヲ附シテ特ニ銀行ノミニ

支拂フ可キ旨ヲ表示スルヲ得

斜線ヲ畫スルトハ斜ニ切手面ニ二箇ノ並行

線ヲ畫シ其間ニ某銀行ノ名ヲ記シ又ハ一モ

記スル所ナキ(唯タ及其會社)ノ語ノミヲ記シ

テ上ノ人名ヲ脱スルトアリ又略字ニテ此語

ヲ記スルトアリ)モノヲ云フ前者ハ記名則チ

特別ノ斜線ニシテ後者ハ無記名即チ白地ノ

斜線タリ前者ニ在テハ引出切手ニ記スル金

額ヲ其記名セシ銀行ニノミ支拂ニ後者ニ在

リテハ何レニテモ銀行ニノミ支拂フヘキ

ヲ示スモノナリ此斜線ハ一ニハ紛失及盜難  
等ニ對シ大ニ安全ヲ得セシム何トナレハ身  
元不朋或ハ不正當ノ人ニ支拂フテ防ケハ  
ナリ又一ニハ所持人ノ便宜トナル何ナレハ  
其平常ノ銀行ニ支拂金收入ノ委任ヲ全與ス  
レハナリ而シテ此記名ノ銀行ハ再ニ他ノ銀  
行ヲシテ收入ノ代理タラシムルテ得ヘシ  
是カ為メニ銀行取引上ニ於ル引出切手ノ流  
通ト諸引出切手ノ殺除及決算ヲ容易ナラシ  
ムルテ尠カラス(「ビ」萬國商法論第二卷第  
四百八十六葉英國千八百五十六年六月二十  
三日「ウ」ロトリヤ「即位十九年ヨリ二十年第二

十五章千八百五十八年八月二日「ウ」ロトリ  
ヤ「即位二十一年ヨリ二十二年第七十九章及  
千八百七十六年八月十五日「ウ」ロトリヤ「即  
位三十九年ヨリ四十年第八十一章ノ法律商  
法雜誌第二十三卷第百四十二葉第百五十九  
葉)然リト雖モ斜線ハ裏書等ノ如キ眞個ノ讓  
渡ヲ表スルニ非ラス唯々銀行ニノミ其切手  
ヲ支拂フヘキヲ示スニ過キス恰モ為替手  
形ノ支拂人ニシテ他人(他所支拂人)ヲ為替ノ  
支拂人トナスモ未タ以テ自ラ支拂人タルノ  
位地ヲ脱スル能ハサルカ如シ故ニ斜線ヲ畫  
シタル引出切手ハ第八百十八條ニ循ニ續々



流通スル一ヲ得ヘシ之ヲ防クニハ無指名等  
ノ語ヲ記シ明ニ其讓渡ス可ラサル一ヲ示サ  
ル可ラス(第三百九十五條及第七百三十三  
條)此ノ如キ引出切手亦タ讓渡スヘカラサル  
ニ非スト雖モ其讓受人ハ引出切手ヨリ新ニ  
獨立ノ權利ヲ得テ之ヲ實行スルヲ得ス唯タ  
讓渡人ノ權利ヲ實行スルニ過キス故ニ讓渡  
ス可ラサル旨ヲ記載シタル引出切手ノ讓渡  
ハ裏書讓渡ニ非ス民法上ノ讓渡ト見做スヘ  
キナリ是レ英國ノ法律學及法律ニ於テ明カ  
ニ是認スル所ナリ(商法雜誌第二十三卷第百  
四十五葉及本按第五百八十六條)又銀行ニ於

テ惡意ナク且怠慢ナク引出切手ヲ支拂ニ或  
ハ其金額ヲ得意先ノ為メニ收入シタル時ハ  
其正當ナル所有者ニ對シ其責ナキモトス  
然レ氏偽造ノ嫌疑アリ或ハ讓渡ス可ラサル  
旨ヲ記シタル引出切手ヲ其權利ナキ人ニ支  
拂フタル時ハ是レ銀行ノ怠慢タルニ疑ヒト  
シ

第八百二十二條

引出切手ハ支拂金ヲ受取ル

時受取證ヲ記シテ之ヲ交付スルノ要ス

此規則ハ為替ニ係ル第七百六十一條ノ規則

ト照應スルモノニシテ支拂ハ引出切手ト引

替ニ之ヲ受ルヲ得ヘク之ニ記載シタル受取

證ハ銀行ノ責ヲ免レタルノ證スルニ供ス

引出切手ヲ請取ラスシテ支拂ヲナスハ銀

行其危険ニ當ルヘシ而シテ引出切手ニハ滿

期日ナキヲ以テ滿期日前若クハ後ノ支拂十

ルモノヲ生スルノ故ニ此點ニ係ル為替

ノ原則(第七百五十八條以下)ハ引出切手ニ適

用スルヲ得ス然レモ其支拂ニ關シテハ為替

支拂金

法(第七百五十四條ヨリ第七百五十六條ニ至ル)ノ原則ヲ適用スヘシ

第八百二十三條 日附ヲ為サス若クハ虚偽ノ

日附ヲ為シテ引出切手ヲ振出シ裏書讓渡シ若

クハ之ニ受取證ヲ記スル者又ハ日附十キ引出

切手ヲ受取り支拂ニ若クハ之ニ受取證ヲ記ス

ル者又ハ相當ノ信用十クシテ引出切手ヲ振出

シ若クハ正當ノ理由十クシテ依頼ヲ取消ス者

ハ引出切手金額ノ百分ノ十ノ過料ニ處ス若シ

刑法上ノ刑ニ處ス可キ行為アルハ併セテ其

刑ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ

規定ヲ適用ス

千八百六十五年ノ佛國法律第六條及千八百

七十三号ノ白耳義法律第五條ニ於テモ亦條  
ト同一ノ罰則アリ是レ不正又ハ偽造ニ出テ  
又ハ相當ノ備金ナキ引出切手ヲ振出し及之  
ヲ流通スルトテ阻遏スルニ在リ公安ノ為メ  
ニ必要ナリ何トナレハ引出切手ニシテ普ク  
流通スルニ於テハ各人皆テ注意ヲ謹ミ惡意  
ヲ防キ以テ他人ノ損害ニ係ルヲ免レシメサ  
ルヘカラサレハナリ夫レ引出切手ハ銀行紙  
幣ニ類スル所多ク之ト同シク公然タル交通  
上ニ安全及信用ヲ保タサルヘカラス故ニ本  
條ニ掲タル犯則ニ加フルノ罰ハ警察上ノ豫  
防タル性質ヲ有シ其犯則者ノ惡意如何ニハ

之ヲ問フトナシ佛國及其他ノ國ニ於テモ犯  
則ノ罪ニ付テハ意思ノ善惡ヲ問ハストノ原  
則アリ以テ其罰ハ道路或ハ江河上ノ交通ニ  
關スル法則及其他ノ警察規則ヲ犯シタルニ  
加フル罰ト同一ニ判定スハシ罰金高ヲ支拂  
切手金高ノ百分十ト定ムルハ白耳義ノ法律  
ニ倣ヘリ佛國ニ於テハ之ヲ支拂切手金高ノ  
百分六ト定ムト雖モ其罰ヲ嚴ニスルハ犯則  
ヲ防クノ目的ニ適當スルカ如シ  
犯則ノ外亦タ無形有形ノ事跡殊ニ法律上刑  
ヲ以テ論スヘキ意趣アル所ハ引出切手ニ由  
テ刑法ヲ以テ罰スヘキ罪ヲ犯ストナシトセ

ス例之ハ詐欺偽造等ノ如キ是レナリ此刑法  
上ノ刑ハ警察上ノ犯則ノ罰ノ外別途ニ論ス  
ヘキナリ又其事跡刑法上ノ犯罪ニ屬セサル  
氏ニ於テモ警察上ノ罰ハ必ス之ヲ加ヘサル  
ヘカラス(千八百六十五年ノ佛國法律第六條  
千八百七十三年ノ白耳義法律第五條)英國ニ  
於テハ千八百五十八年八月二日(ウヒクトリ  
ヤ)即位二十一年ヨリ二十二年第七十九章ノ  
法律ニ循ヒ引出切手ノ偽造或ハ使用ニ詐偽  
アル氏ハ為替ノ偽造ト同ク重罪ヲ以テ論ス  
(レビ)氏萬國商法論第一卷第四百八十七葉



